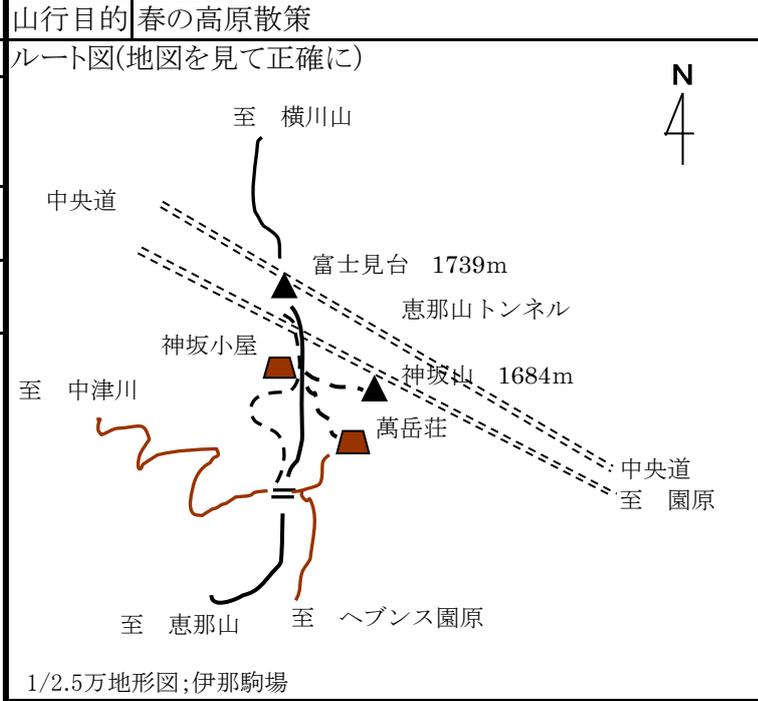


縦の木会(デンソー山岳部OB会)

4月度 例会 山行報告書			報告者;	渡辺勝利	参加 メンバー	CL; 渡辺勝利 育子
個人			報告日;	5/1		
山城	中ア南部	山行日	10年4月30日(金)			
山名	富士見台		日帰り			

配布先
参加者;
PC又は
郵送にて
原紙;
会事務局
HP作成;
大矢



4/30(金)	快晴→晴→曇り
7:00	豊田自宅発
9:30~40	神坂峠駐車場
10:05	萬岳荘分岐
10:20~25	富士見台頂上
10:40	神坂小屋
11:00~10	神坂山
11:25~50	神坂小屋
12:00~25	萬岳荘
12:30~50	神坂峠駐車場
14:30~15:45	R256(花もも街道)經由 昼神温泉(湯たり一な)
18:00	豊田自宅着

<山行記録>

今日は朝から好天が予測されたので前日、急遽今年はやまびこ祭のルートの一つである富士見台に出かけることにした。予想通り朝から快晴となり、世間がGWで賑やかになる前の静かな高原歩きができることを期待していつもの相棒と出発。東海環状から中央道も混雑なく、中津川ICからR19を北上、沖田交差点を右折シクワリゾート湯船沢を過ぎて林道霧が畑・大谷線に入る。道端の山桜やつつじなどの花々を眺めつつ、九十九折れの林道を強清水を経て神坂峠に着く。駐車場には既に数台の車が止められていて出発準備中の組もいる。皆さん、混雑を避けてやって来た老年組のようで、富士見台を目指すようだ。われわれも早々に準備し後を追って出発。東山道の史跡の神坂峠の碑の横を抜けて、尾根の腹に付けられた巻き道に取り付く。道は平らで歩き易いが北西からの強い風で顔が痛い。ぼかぼか陽気をあてにしてきたが既に天候も快晴から雲が出始め晴に変わってきた。先発した単独のご老人が防寒着を着こんでいる横を追い抜き、しばらくすると前方に全面が熊笹で覆われた丸いピークが見えてきた。更に尾根を回りこむとすぐに萬岳荘からの分岐に着き、ここから神坂小屋を経由して富士見台頂上までは平坦路でわずかな距離であった。ルートはよく整備され両側には、「笹ゆり群生地」につき立ち入り禁止のロープが頂上まで続いていた。頂上は広々としており気持ちの良さそうな場所だが、今日は天候も晴から曇りに変わり、陽射しもなく、期待していた頂上からのアルプスの眺望も全く望めず、その上、風も強く吹きつけており、寒いことこの上ない。こんなところに長居はごめんだと記念写真のみでほうほうの態で頂上を後にする。途中、神坂山に寄り道してから神坂小屋で大休止とする。この小屋は2棟あり、まだ新しく、トイレまで設置され、管理状態も大変よく、関係者のご努力に敬服する。このころわずかな時間であったが雪まで落ちてきた。どうりで寒いはずだ。復路はここから萬岳荘に直接降りることにしたが、階段状のよく整備された遊歩道で、ヘブンス園原から、シャトルバスでやって来た数組の観光客が普通の格好で登ってきて、分岐付近の寒さに驚いて引き返して行った。萬岳荘もウッドハウスの真新しい建物で素泊まりもできる。ここで暖かいコーヒーで一息入れた後、峠の駐車場までの車道はほんの一投足の距離であったが峠に戻った時には、暖かい陽射しが戻っていた。

<リースペース>



<リーダー所見>

40数年前に福井さんと黒井沢から富士見台へ一日掛けて縦走し、帰りの林道でトラックに拾ってもらった思い出の富士見台。当時は牧場に牛が草を食み、その横をおっかなびっくりで歩いた記憶があり、それがどこだったのかを辿る山行でもあったが、牧場の痕跡である赤錆びたアングルの杭と鉄条網が神坂山付近に延々と残っていた。あの頃の賑やかさはどこに行ってしまったのだろうか。万感胸に迫るものがあった。そんな感傷を振り払うように岐路はR256の「はなもも」を楽しみ、温泉に浸かった後帰豊。

神坂小屋付近から富士見台を望む

確認
(リーダー)
渡辺勝利
10/05/01
(報告者)